ハッピーバースデー

HAPPY BIRTHDAY

今月で１歳になりま～す

岩本 尋翔（ひろと）くん

久玉町

父・千尋さん
母・美子さん

パパのように大きく、優しい人に育ってね♡

洲﨑 千愛（せな）ちゃん

佐伊津町

父・健生さん
母・智香子さん

みんなから愛される幸せ者！リボンがトレードマークの看板娘です。

原田 賢辰（けんしん）くん

五和町御領

父・和也さん
母・佳奈子さん

お魚大好き！じぃじ、父ちゃん、大きくなったら釣りを教えてね。

田中 結菜（ゆな）ちゃん

楠浦町

父・尚吾さん
母・庸子さん

天翔（そら）お兄ちゃん、結海（ゆう）お姉ちゃんいっぱい遊んでね。

池田 優聖（ゆうせい）くん

五和町城河原

父・修市さん
母・久美さん

お兄ちゃん大好き♡これからもたくさん遊んでね♪

堀口 ひより ちゃん

天草町大江

父・洋介さん
母・文子さん

いつまでもお姉ちゃんと仲良く、明るく優しい女の子に育ってネ♡

濵田 雄大（ゆうだい）くん

天草町下田北

父・章太さん
母・恵美子さん

お歌が大好き！！元気で健康に育ってね。

新木 美優（みゆ）ちゃん

新和町碇石

父・安志さん
母・宏美さん

マンマ大好き！来年２月にはお姉ちゃんになります♡

野田 脩太（しゅうた）くん

牛深町

父・竜仁さん
母・美咲さん

竜兄ちゃん、みんな遊んでくれてありがとう。これからもよろしくね。

10月で満１歳になるお子さんを募集します！

●応募期限＝９月10日㊎まで（必着）。

●応募方法＝写真裏にお子さんの住所、氏名（ふりがな）、生年月日、性別、電話番号、コメント（30字以内）、保護者名（父・母）を記入し、〒863-8631（住所記載不要）天草市役所秘書課へ郵送または持参してください。なお、写真はお子さんが大きく、鮮明に写っているものをお願いします。また、写真の掲載は９人まで（応募者多数の場合は抽選）とし、応募写真は返却しません。

読者のつぶやき

農家の娘をもろうたばっかりに見よう見まねで農業に参入して早16年。今年んごつきつか稲刈りはなかったですバイ！稲は倒れ、機械が故障し、天気にも見放され、とどめは台風まで。農家の苦労がしみじみわかる今日このごろです。

ペンネーム：根こそぎ丸船長

夏が来ると思い出します。子どもたちが小さいころに、“きゅうり”を「メロンだよ」と言って食べさせていたことを…。今ではゴーヤが苦手な私に、「その苦味（にがみ）を味わうんだよ！」と教えてくれるほど成長してくれています。

ペンネーム：ヘチマ

皆さんからのお便りを募集しています！

身近であったできごとや、季節に思いをはせることなど、ぜひご応募ください。原稿は100字程度で、応募者多数の場合は選考のうえ掲載します。

※表記などを統一するため、趣旨を変えず文章を直すこともあります。

▶応募期限＝９月10日㊎まで(必着)。

▶応募方法＝寄稿文をまとめたものに、ペンネームと住所、氏名、性別、電話番号を記入し、〒863-8631（住所記載不要）天草市役所秘書課へ郵送または持参してください。

市長随筆

2020核廃絶広島会議に参加して

天草市長　安田 公寛

2020核廃絶広島会議が７月28・29日の両日、広島市で開かれ、私も初めて参加してまいりました。16カ国の69都市と51の非政府組織から200人を超える参加があり、２日間にわたり、各国、各地域における核兵器廃絶へ向けた取り組みなど、活発な議論が交わされました。主催の一つである平和市長会議は、世界の都市が緊密な連携を図り、核兵器廃絶の実現に向けた取り組みと、飢餓、貧困、人権などの諸問題や、環境保護のために努力し、世界恒久平和の実現を目ざすことを目的に設立された団体で、８月１日現在、世界144カ国の地域4069都市、国内では785の自治体が加盟しています。本市も、同会議の活動に賛同し、平成19年に加盟しました。開催にあたり、潘基文（バンギムン）国連事務総長からは「今日、世界人口の大多数が都市に居住している。全市長の団結は、全世界の団結を意味する」とのメッセージが寄せられました。このメッセージにもありますように、全国の、そして世界の各自治体が連携し、核兵器廃絶と世界平和に向けた声を上げていかなければならないと、あらためて実感しました。そのためにも、地域や学校、職場などにおいて、次代を担う子どもたちに、戦争の悲惨さと平和の尊さを伝えていかなければならないと強く決意しました。

煌（きら）めく人たち

自分が生まれた星を思いやること

松本憲一（けんいち）さん（有明町上津浦・57歳）

有明町上津浦（こうつうら）に住む松本憲一さんは、地元の建設会社に勤務するかたわら、県の地球温暖化防止活動推進員を務めている。推進員になったのは12年前、旧有明町役場からの誘いに「自然が大好きだったから」と、ごく軽い気持ちだった。その後、推進員の仕事である講演活動を始めたが、与えられた資料をただ説明するだけの講演は、「ふと気付くと、半数の人は退席していた」という。

そんな中、ひとつの転機が訪れる。ある日松本さんは、炎天下での仕事がたたり熱中症で倒れ、自宅で静養していた。そのときテレビで見たのが、海面の上昇で国土が水没の危機にひんしている〝ツバル〟という南太平洋に浮かぶ島国のようすだった。「地球温暖化の防止に携わる者として、このままではいけない」。松本さんは、いちから地球温暖化の勉強をすることを決意。そして、学生のころからの趣味であったフォークギターを手にした。その後、自分の目で確かめようと単身ツバルを訪問し、地球儀と月の模型をつけた特製のヘルメットをかぶり、現地の住民の前で自作の歌を披露。「思いは通じた」と胸を張る。現在は、市内外でコンサート形式の講演会を開くほか、自作の絵本を携えて市内の保育園を巡るなど、精力的に活動を行う。

「この活動が、自分が生まれた星を思いやる何かのきっかけになれば」。頭の上で回る地球儀を指さしながらこぼれる笑顔には、推進員の枠を超えて、自身のライフワークとして取り組む充実感があふれていた。